



新古茶道具宮原の宮原と申します。

平素はご愛顧を賜わり、厚く御礼申し上げます。

また初めてカタログを手にとっていただきました方も、お読みいただき誠にありがとうございます。

当店は、古儀茶道藪内流の茶道具を中心に扱う茶道具店でございます。もちろん他流のお客さまにも楽しんでいただけますよう誠意努力させていただきますので、何卒御用命のほどよろしく願いいたします。

カタログ内に気になるお道具がございましたら、電話(ショートメールも可)、メールなどにてご連絡くださいませ。
ご連絡いただいた商品から対応させていただきます。

また、展示会以外のお日にちにてご来店希望の際は、事前に来店日時をご予約いただきますようお願い申し上げます。



店舗情報 新古茶道具宮原

住所: 京都市下京区西洞院通正面下る鍛冶屋町439-1

TEL: 090-9980-6630

MAIL: sadougumiyahara@gmail.com

藪内流の茶道具につきまして、販売・買取・修理など幅広く対応させていただきます。



	<h3>色絵梅に遠山絵茶碗 阿山作</h3> <p>京焼の陶工である通次阿山作の梅に遠山絵の色絵茶碗になります。利休梅と遠山の季節の意匠のお茶碗になります。</p> <p>共箱 直径約12.5cm 高さ約8cm ¥30,000(税込)</p>
	<h3>御本立鶴茶碗 高橋道八作</h3> <p>京焼の陶工である高橋道八作の御本立鶴茶碗になります。明治期の6代で作で丸みを帯びた筒茶碗になります。鶴の絵と喜の文字が描かれたおめでたい一鉢です。</p> <p>共箱 直径約11cm 高さ約9.3cm ¥30,000(税込)</p>
	<h3>御本呉器茶碗</h3> <p>御本呉器茶碗になります。呉器茶碗とは深い碗形で裾が開いた高い高台を持つ禅宗寺院の「御器」(食事用の碗)に似ているため着いた名称だといわれています。</p> <p>桐箱 直径約12.5cm 高さ約8.5cm ¥88,000(税込)</p>
	<h3>吉野桜茶碗 永楽善五郎作 透月斎箱</h3> <p>京焼の名工である永楽善五郎作の吉野桜絵茶碗で藪内流読え印の押された一鉢です。楠木正成公の600年記念で作られた一鉢のようで藪内流11代透月斎宗匠の箱書きがされています。</p> <p>共箱 直径約12.2cm 高さ約6.5cm ¥65,000(税込)</p>
	<h3>菊桐絵茶碗 六兵衛作 透月斎箱</h3> <p>菊桐絵唐津写し茶碗で京焼の名工である清水六兵衛の作となっております。流祖藪内剣仲が豊臣秀吉より賜った絵唐津茶碗が本歌であり藪内流では大変珍重された意匠のお茶碗です。藪内流11代透月斎宗匠の箱となっております。</p> <p>共箱 直径約11cm 高さ約8.3cm ¥80,000(税込)</p>
	<h3>志賀焼若松絵茶碗 銘「蓬莱」休々斎箱</h3> <p>志賀焼の若松絵茶碗で藪内流10代の休々斎宗匠が銘を「蓬莱」とされています。志賀焼は江戸時代に長崎県対馬。志賀でやかれた焼き物であり初期は雑器を焼かれていたが後に高麗の写しを焼くようになった窯元です。新渡の染付の写しなども多く作られました。</p> <p>共箱 直径約11.3cm 高さ約7.5cm ¥120,000(税込)</p>

	<h3>仁清写八重桜茶碗 阿山作</h3> <p>京焼の陶工である通次阿山作の仁清写し八重桜茶碗になります。桜の枝の美しい色絵のお茶碗になります。</p> <p>共箱 直径約12cm 高さ約7.8cm ¥30,000(税込)</p>
	<h3>古代唐草文様天目茶碗 本願寺窯</h3> <p>古代唐草文様の天目茶碗で本願寺窯で焼かれたお茶碗のようです。言葉の通り古くから用いられる唐草を色絵で描かれています。</p> <p>共箱 直径約12.8cm 高さ約7cm ¥20,000(税込)</p>
	<h3>京唐津塩筥形茶碗</h3> <p>京唐津の塩筥形茶碗になります。肌や釉薬は唐津の風情を携えていますが高台が元の唐津と違い渦高台を成しています。唐津の茶碗の高台は三日月高台が一般的です。塩筥(しおげ)とは幸朝の塩や調味料を入れた小壺の形の名称です。金直しあり。</p> <p>桐箱 直径約10.5cm 高さ約8cm ¥35,000(税込)</p>
	<h3>鞍馬焼茶碗 銘「うす桜」透月斎箱</h3> <p>鞍馬焼の茶碗で藪内流11代透月斎宗匠が銘を「うす桜」とされています。京都の鞍馬でやかれた焼き物で楽に近い柔らかい土のお茶碗です。淡い赤の色合いが桜のグラデーションのようで銘もとても合っています。</p> <p>共箱 直径約14.3cm 高さ約5.8cm ¥58,000(税込)</p>
	<h3>一元黒茶碗 銘「冬籠り」節庵箱</h3> <p>一元作の黒茶碗で藪内流9代宝林斎宗匠の次男である藪内節庵宗匠が銘を「冬籠り」とされています。一元は楽4代一入の子で玉水焼という楽焼の初代になります。手に収まりの良い茶碗で冬籠りの銘が似合う一鉢です。黒漆での共直しあり。</p> <p>共箱 直径約10.5cm 高さ約7.5cm ¥120,000(税込)</p>
	<h3>珠光青磁茶碗 銘「吸江」竹猗箱</h3> <p>珠光青磁のお茶碗で藪内流8代真々斎竹猗宗匠が銘を「吸江」とされています。珠光青磁は村田珠光が好んだとされる中国南宋時代の素朴な青磁茶碗の総称で淡い黄褐色や灰緑色の釉薬と内外の欄目文様が特徴です。</p> <p>共箱 直径約16cm 高さ約7.2cm ¥480,000(税込)</p>

膳所焼金彩若松茶碗 陽炎園製 青々斎箱



膳所焼、陽炎園製の金彩若松絵茶碗で数内流13代青々斎宗匠が箱書きをされています。金彩の松の絵と茶碗の内側にも金箔の箔張りがなされたおめでたい意匠の一碗です。

共箱 直径約11.8cm 高さ約7.8cm
¥33,000(税込)

午年御本茶碗 清水六兵衛作



京焼の名工である5代清水六兵衛作の午の絵御本茶碗になります。5代の六兵衛の作品は多岐にわたり御本や三島など様々な技法を使いこなしています。

共箱 直径約12.6cm 高さ約6.5cm
¥20,000(税込)

掛馬絵茶碗 川上拙以画 川上徹作



日本画家で数内流12代騎々斎宗匠の絵の師でもあった川上拙以筆の掛け馬絵茶碗になります。茶碗の作者である川上徹は拙以の子であり、親子合作のお茶碗になります。

共箱 直径約12cm 高さ約7.6cm
¥35,000(税込)

時代安南染付茶碗



染付の安南茶碗になります。安南(あんなん)とは旧くはベトナムの事を指し、茶道具でいわれる安南茶碗は現地で多く焼かれた呉須という青い釉薬に白地の焼き物になります。

桐箱 直径約14.4cm 高さ約6.8cm
¥88,000(税込)

無学和尚手造茶碗 銘「寒牡丹」休々斎箱



数内流10代休々斎宗匠が箱書きをされている無学和尚手造の赤茶碗です。休々斎宗匠が銘を「寒牡丹」とされています。無学宗匠(1721-1791)和尚は大徳寺第378世の僧侶で千家の七事式の監修もされました。彫銘、金緒いあり。

銀箱 直径約12.7cm 高さ約8.6cm
¥100,000(税込)

萩焼茶碗 銘「うちで」桂陰斎箱



萩焼の茶碗で数内流7代 桂陰斎竹翁宗匠が銘を「うちで」とされています。少し丸みを帯びた三角に近い州浜の形状です。銘も形状からなのでしょう。横から見たさまも打ち出の小づちに見えなくもありません。大変おめでたい銘になります。

共箱 直径約12.3cm 高さ約7.8cm
¥120,000(税込)

色絵橋柳茶碗 平安美晴作



色絵の橋柳茶碗で京焼の陶工である平安美晴作となっております。金銀彩を惜しげなく使った美しい蒔絵がなされています。

共箱 直径約12.8cm 高さ約8cm
¥30,000(税込)

竹破筆 節分文字茶碗 永楽作



京焼の陶工である14代永楽善五郎得全作で明治の日本画家である尾竹竹破(おたけちくは)筆の「富久者有智 遠仁者疎道(ふくわうちおにはそと)」文字に手形の節分茶碗になります。この言葉は音訓読みで読み替えることができ「富久しき者は智あり。仁に遠き者は道を疎んず」とも読めます。

桐箱 直径約9.5cm 高さ約8cm
¥45,000(税込)

日乃出鶴茶碗 銘「南山」永楽得全作 透月斎箱



京焼の名工であった14代永楽善五郎得全作の日の出鶴茶碗で数内流11代透月斎宗匠が銘を「南山」とされています。「南山」とは禅語などでもしばしば見られ世俗から離れた静かな生活のことを指したり、人の長寿を祝う意味の言葉で使われます。

共箱 直径約12.2cm 高さ約8.2cm
¥88,000(税込)

備前焼茶碗 銘「木枯」透月斎箱



備前焼の茶碗で数内流11代透月斎宗匠が銘を「木枯」とされています。備前焼らしい高温の窯による火のかかり方によって変わる景色が美しいお茶碗です。手取りもよく小柄で薄茶がすすむ一碗です。

共箱 直径約11cm 高さ約7cm
¥88,000(税込)

虫明焼桜の絵茶碗 透月斎箱



虫明焼の桜の絵茶碗で数内流11代透月斎宗匠の箱書きとなっております。少し四方形になったお茶碗です。淡い虫明焼の色味と桜の花が落ちていた印象を感じます。

共箱 縦約11.5cm 横約13cm 高さ約7.5cm
¥88,000(税込)

比老斎手造胴占め茶碗 銘「小大黒」



数内流6代比老斎竹心手造りの胴占め茶碗で数内流11代透月斎宗匠が銘を「小大黒」とされています。素土で薄緑色の数内釉を使った手造り茶碗です。数内流ではお家元が還暦を迎える際に「恵比寿」と「大黒」という手造り茶碗を作る習わしがありこの「大黒」を少し小さくした形状によく似ているため透月斎宗匠はこの銘をつけられたのではないのでしょうか。

銀箱 縦約10cm 横約9.5cm 高さ約8.5cm
¥380,000(税込)

	<h3>椿蒔絵白塗棗 宗利作</h3> <p>加賀の蒔絵師である西村宗利作の椿蒔絵の白塗り中棗になります。花芯の部分に螺鈿を施した細やかなお棗です。</p> <p>共箱 直径約6.7cm 高さ約6.5cm ¥25,000(税込)</p>
	<h3>吉祥丸紋大棗 宗尹作</h3> <p>吉祥丸紋の大棗で山中塗りの塗師である中村宗尹作になります。鶴や松、小槌に砂金袋などの文字通りおめでたい意匠尽くしです。</p> <p>共箱 直径約7.3cm 高さ約7.3cm ¥20,000(税込)</p>
	<h3>出世柳蒔絵棗 薫和作</h3> <p>塗師の薫和作の出世柳蒔絵棗になります。出世柳は目張り柳とも呼ばれ早春のころ芽が萌え出ようとする柳のことを言います。</p> <p>共箱 直径約6.7cm 高さ約6.5cm ¥25,000(税込)</p>
	<h3>独楽塗棗 橋口宗栄作</h3> <p>数内流の塗師である橋口宗栄作の独楽塗り棗になります。当代宗栄の作になります。</p> <p>共箱 直径約6.7cm 高さ約6.5cm ¥55,000(税込)</p>
	<h3>雪花蒔絵平棗 橋口宗栄作 猗々斎箱</h3> <p>数内流の塗師である橋口宗栄作の雪花蒔絵平棗になります。数内流12代猗々斎宗匠の箱書きとなっております。</p> <p>共箱 直径約8.5cm 高さ約5.5cm ¥100,000(税込)</p>
	<h3>皺竹面取中次 透月斎在判・箱</h3> <p>皺竹(しぼちく)面取中次で数内流11代透月斎宗匠が底に在判と箱書きをされています。皺竹は竹の皮の表面に縦にしわの入る種類の竹で茶杓などに珍重されます。茶器につかわれることは珍しくあります。数内流らしさのあふれる薄茶器です。</p> <p>共箱 直径約5.5cm 高さ約5.7cm ¥120,000(税込)</p>

	<h3>梅中次 久須来郎作 銘「鶯宿」随竹庵箱</h3> <p>大阪の指物師で休々斎、透月斎宗匠時代の数内流の指物を多く手掛けた久須来郎作の梅中次になります。数内流の分家である随竹庵の箱で銘を「鶯宿(おうしゆく)」とされています。</p> <p>共箱 直径約6.7cm 高さ約7.7cm ¥40,000(税込)</p>
	<h3>福の字朱棗 橋口宗栄作 猗々斎在判・箱</h3> <p>数内流の塗師である橋口宗栄作の福の字朱棗で数内流12代猗々斎宗匠の在判・箱となっております。</p> <p>共箱 直径約6.5cm 高さ約6.7cm ¥88,000(税込)</p>
	<h3>寿文字朱棗 橋口宗栄作 青々斎在判・箱</h3> <p>数内流の塗師である橋口宗栄作の寿文字朱棗で数内流13代青々斎宗匠の好みになります。「ワシントン茶道展のため是を好む」と箱書きに残されています。</p> <p>共箱 直径約6.5cm 高さ約6.7cm ¥100,000(税込)</p>
	<h3>一閑張雛棗 橋口宗栄作 猗々斎在判・箱</h3> <p>数内流の塗師である橋口宗栄作の一閑張りの立雛蒔絵棗になります。数内流12代猗々斎宗匠が棗の蓋裏に在判を朱で残されており箱書きもされています。</p> <p>共箱 直径約7.2cm 高さ約7cm ¥100,000(税込)</p>
	<h3>乾漆糸手毬茶器 透月斎在判・箱</h3> <p>乾漆の糸手毬茶器で数内流11代透月斎宗匠が内側に在判をされており、銘を「初春」とされています。内銀地で透月斎宗匠の在判が映えます。</p> <p>共箱 直径約6.8cm 高さ約6.5cm ¥120,000(税込)</p>
	<h3>宝林棗 橋口宗栄作 透月斎在判・箱</h3> <p>数内流の塗師である橋口宗栄作の宝林棗です。数内流11代透月斎宗匠の好み棗で宝尽くしの意匠で蓋裏に大きく「寶(たから)」の文字が描かれています。棗底に透月斎宗匠の在判がされています。</p> <p>共箱 直径約7.4cm 高さ約6.8cm ¥200,000(税込)</p>

	<h3>桑茶桶 大小一雙 休々斎在判・箱</h3> <p>藪内好の桑茶桶の大小一雙になります。藪内流10代休々斎宗匠が大小両方の蓋裏に銀字で花押と号を記されています。</p> <p>共箱 大:直径約6.8cm 高さ約6.6cm 小:直径約6.2cm 高さ約6cm ¥85,000(税込)</p>
	<h3>備前茶入 小西陶古作</h3> <p>備前焼の肩衝茶入で陶工の小西陶古作となっております。本國寺金襴の仕服が添えられています。</p> <p>共箱 直径約7.2cm 高さ約7.5cm ¥25,000(税込)</p>
	<h3>伊部窯平茶入 銘「吉備団子」竹鳳箱</h3> <p>伊部窯の平茶入で藪内流8代真々斎竹翁の次男である藪内竹鳳の箱で銘を「吉備団子」となっております。伊部窯、つまり備前焼の茶入で形状が丸く団子のようにであったため、この銘になったのでしょう。</p> <p>共箱 直径約7cm 高さ約6.4cm ¥50,000(税込)</p>
	<h3>祥瑞写細茶入 須田青華作 透月斎箱</h3> <p>九谷の陶工である須田青華作の祥瑞写し細茶入で藪内流11代透月斎宗匠の箱となっております。青華作の替え蓋もあり薄茶器としてもお使いいただけます。仕服も可愛い物が添えられています。</p> <p>共箱 直径約5cm 高さ約9.5cm ¥100,000(税込)</p>
	<h3>瀬戸肩衝茶入 銘「一啜」休々斎箱</h3> <p>瀬戸の肩衝茶入で藪内流10代休々斎宗匠が銘を「一啜(いっつと)」とされています。瀬戸の唾壺の勢いが感じられるような線を帯びている茶入で「一口でのみこむ」といったこの銘の意味に釣り合う茶入です。</p> <p>共箱 直径約6.5cm 高さ約9.5cm ¥120,000(税込)</p>
	<h3>志戸呂焼 瓢形耳付茶入</h3> <p>志戸呂焼の瓢形耳付茶入です。志戸呂焼は始まりは室町時代ともいわれ江戸時代には遠州七窯にも数えられた窯元です。こちらの茶入は蓋も古く釉薬の垂れが美しいお茶入です。女桑の箱も大事にされていたことが伺えます。</p> <p>共箱 直径約6cm 高さ約10cm ¥168,000(税込)</p>

	<h3>小林太玄作茶杓 銘「ほのぼの」</h3> <p>大徳寺黄梅院小林太玄和尚作の染み竹茶杓で銘が「ほのぼの」となっております。</p> <p>共箱 共筒 長さ約18.5cm ¥20,000(税込)</p>
	<h3>猗々斎作茶杓 銘「蓬が島」</h3> <p>藪内流12代猗々斎宗匠作の茶杓で銘を「蓬が島(よもぎがしま)」となっております。蓬が嶋とは中国の故事で不老不死の仙人が住む理想郷、蓬萊山や蓬萊島とも呼ばれ松竹梅が生い茂り鶴亀が遊ぶ島として古来多くの美術品に描かれてきた吉祥の意匠になります。</p> <p>共箱 共筒 長さ約18.5cm ¥85,000(税込)</p>
	<h3>透月斎作茶杓 銘「冬木立」</h3> <p>藪内流11代透月斎宗匠作の染み竹茶杓で銘を「冬木立」とされています。寒々しい裸木のことを「冬木(ふゆき)」、それらが立ち並ぶ様子を「冬木立(ふゆこだち)」といい冬の季語ともなります。</p> <p>共箱 共筒 長さ約18.5cm ¥100,000(税込)</p>
	<h3>透月斎作茶杓 銘「ひな鶴」</h3> <p>藪内流11代透月斎宗匠作の染み竹茶杓で銘を「ひな鶴」とされています。藪内流御家元が雛祭の時にお使いになるお茶杓も「ひな鶴」の銘ですが御作が透月斎宗匠夫人の茶杓になります。</p> <p>共箱 共筒 長さ約18.5cm ¥120,000(税込)</p>
	<h3>休々斎作茶杓 銘「太箸」</h3> <p>藪内流10代休々斎宗匠作の茶杓で銘を「太箸(ふとばし)」となっております。休々斎宗匠の茶杓にしては太く大きい茶杓ですがその銘の通り太箸とは新年の祝いの食膳に用いる太い白木の箸のことを指し、正月から箸が折れては縁起が悪い為だといわれています。新年の季語になります。</p> <p>共箱 共筒 長さ約18.2cm ¥140,000(税込)</p>
	<h3>休々斎作唐白檀茶杓 銘「泉楽」</h3> <p>藪内流10代休々斎宗匠作の唐白檀茶杓で銘が「泉楽」となっております。渡来の白檀材を使った木製の茶杓のようで皮目を残して削られています。「泉楽(せんらく)」は楽の湧き出るところといった意味でしょうか。</p> <p>共箱 共筒 長さ約18cm ¥180,000(税込)</p>

	<h3>龍宝山尻張釜 和田美之助作</h3> <p>龍宝山尻張釜で京都の釜師である和田美之助の作となっております。龍宝山は大徳寺の山号のことです。</p> <p>共箱 直径約24cm 高さ約24cm 口径約11cm ¥45,000(税込)</p>
	<h3>利休好写丸釜 12代忠三郎作</h3> <p>利休好みの丸釜の写しで名古屋の釜師である12代加藤忠三郎作の炉釜になります。</p> <p>共箱 直径約24cm 高さ約24cm 口径約11.5cm ¥50,000(税込)</p>
	<h3>野馬釜 多茂都作</h3> <p>鋳物師の般若多茂都作の野馬釜になります。野馬とは野生の馬という意味で生気にあふれる様子で描かれます。芦屋の古作の釜から使われ続けている意匠です。</p> <p>共箱 直径約25cm 高さ約24cm 口径約14cm ¥50,000(税込)</p>
	<h3>法華寺釜 名越作 寒薙箱</h3> <p>名越昌晴作の法華寺釜で13代の宮崎寒薙の識箱となっております。名越昌晴(なごしまさはる)は、江戸時代初期の釜師で、江戸名越家10代にあたり通称を弥五郎とされていました。広口の釜になります。</p> <p>識箱 直径約23cm 高さ約22cm 口径約18cm ¥120,000(税込)</p>
	<h3>駆け馬柳地紋霰広口釜 西村道弥作</h3> <p>江戸初期の釜師である西村道弥作の柳に馬地紋霰広口釜で大西清右衛門の識が添えられています。柳と霰地の間を駆け抜ける馬の地紋が大変特徴的です。午年の初釜のお道具です。古道弥は砂肌の釜を得意としたとされておりこちらも下部肌地は美しい砂肌です。</p> <p>識箱 直径約27cm 高さ約21cm 口径約17.5cm ¥130,000(税込)</p>
	<h3>尻張手取釜 奥谷了保作</h3> <p>了保作の尻張手取釜です。奥平了保(おくだいらょうほ)は江戸時代後期の京都三条釜座の釜師で大西家九代浄元の子になります。釣り鎖、替え蓋、添え状などが付随します。</p> <p>共箱 縦約19cm 横約22cm 高さ約22cm 口径約9.5cm 弦を含む高さ約30cm ¥150,000(税込)</p>

	<h3>金彩網栄螺水指 平安龍岳作</h3> <p>京焼の陶工である橋本龍岳作の金彩網栄螺水指になります。栄螺には「家が栄える」といった縁起物の意味があります。</p> <p>共箱 縦約20cm 横約23cm 高さ約13.5cm ¥35,000(税込)</p>
	<h3>仁清写柳橋水指 通次阿山作</h3> <p>仁清写の柳橋水指で京焼の陶工である通次阿山の作となっております。藪内流の流儀扇にも描かれる絵柄で桃山橋柳屏風がもととなっています。</p> <p>共箱 直径約16cm 高さ約18.5cm ¥58,000(税込)</p>
	<h3>高取焼筆瓢水指 八仙作 青々斎箱</h3> <p>高取焼の筆瓢水指で13代高取八仙作になります。藪内流13代青々斎宗匠の箱書きとなっています。</p> <p>共箱 直径約16cm 高さ約18.5cm ¥60,000(税込)</p>
	<h3>膳所焼抱き桶水指 家伝の写 猗々斎箱</h3> <p>膳所焼の抱き桶水指で藪内流12代猗々斎宗匠が箱書きをされており「家伝の写し」とされています。</p> <p>共箱 直径約18cm 高さ約20cm ¥85,000(税込)</p>
	<h3>利休形真手桶 記三作 宗哲識</h3> <p>利休形の真手桶で武野紹鴎や千利休の時代に茶道具を専門に製作した「抱え塗師」の一人であった記三(きざう)の作になります。記三は真手桶とされ数は多く作られたようです。中村宗哲の識箱。</p> <p>共箱 直径約25.5cm 高さ約25cm ¥120,000(税込)</p>
	<h3>古清水末広形水指 猗々斎箱</h3> <p>古清水の末広水指で藪内流12代猗々斎宗匠の箱となっております。古清水は野々村仁清以後、奥田穎川(おくだ えいせん: 1753~1811)以前のものをさし、この水指は古清水特有のひび釉をかぶり地色は純白でない栗田口と呼ばれる系統の陶器になります。</p> <p>共箱 直径約20cm 高さ約21.3cm ¥200,000(税込)</p>

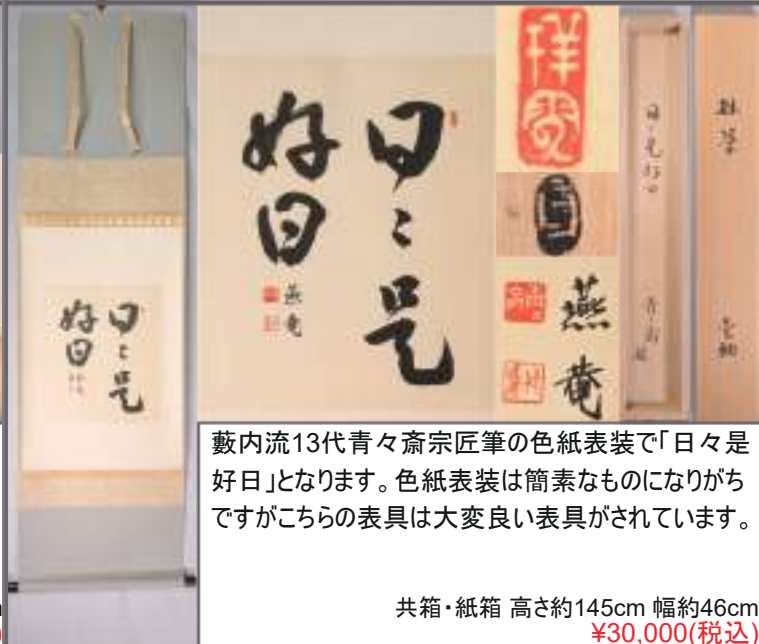
椿に梅画 須磨耐水筆



須磨耐水筆の椿に梅画になります。須磨耐水(すまたいすい)は、明治から昭和にかけて活躍した大阪出身の日本画家で特に花鳥風月や季節の題材を得意としました。

桐箱 高さ約192cm 幅約33.5cm
¥20,000(税込)

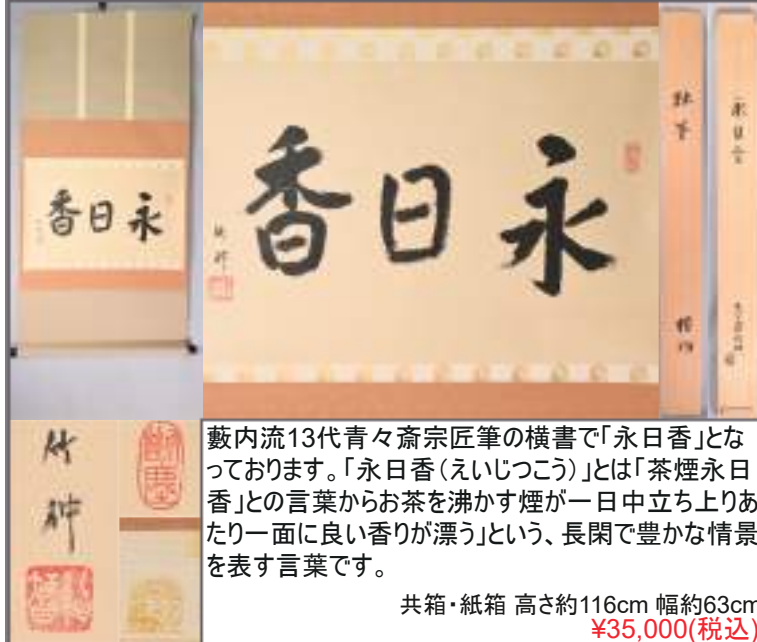
「日々是好日」青々斎筆



藪内流13代青々斎宗匠筆の色紙表装で「日々是好日」となります。色紙表装は簡素なものになりがちですがこちらの表具は大変良い表具がされています。

共箱・紙箱 高さ約145cm 幅約46cm
¥30,000(税込)

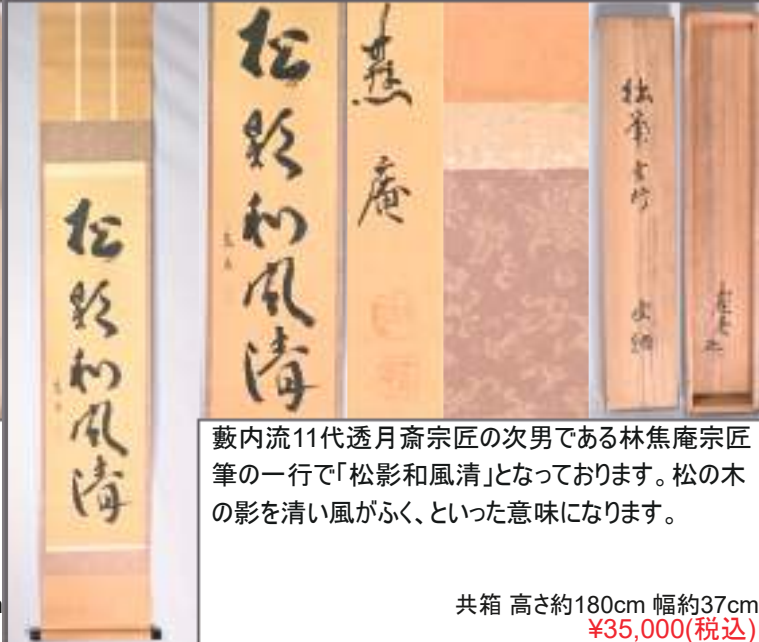
「永日香」横物 青々斎筆



藪内流13代青々斎宗匠筆の横書で「永日香」となっております。「永日香(えいじつこう)」とは「茶煙永日香」との言葉からお茶を沸かす煙が一日中立ち上りあたり一面に良い香りが漂う」という、長閑で豊かな情景を表す言葉です。

共箱・紙箱 高さ約116cm 幅約63cm
¥35,000(税込)

「松影和風清」一行 林焦庵筆



藪内流11代透月斎宗匠の次男である林焦庵宗匠筆の一行で「松影和風清」となっております。松の木の影響を清い風がふく、といった意味になります。

共箱 高さ約180cm 幅約37cm
¥35,000(税込)

「春風万里」朱紙一行 節庵筆



藪内流9代宝林斎宗匠の次男で分家の随竹庵4代でもある藪内節庵筆の「春風万里」の朱紙一行になります。春風が万里の先まで吹き渡る、という意味で春の訪れをつげる新年の一行です。

共箱 高さ約167cm 幅約40.5cm
¥50,000(税込)

寒山拾得画賛 大谷尊由筆



藪内流11代透月斎宗匠の門弟で西本願寺21世法主光尊の4男である僧侶の大谷尊由筆の寒山拾得画賛となっております。「千林蕭瑟晚風涼一事同君細較量樽掃靜多轉掃青首黃葉滿斜陽」とあり、林の側吹き荒ぶ風の元で掃き競っていると日が射し黄色い葉を照らしていく、といった歌のようです。絵を描いたのは尊由の絵の師である井口華秋になります。

桐箱 高さ約216cm 幅約40cm ¥140,000(税込)

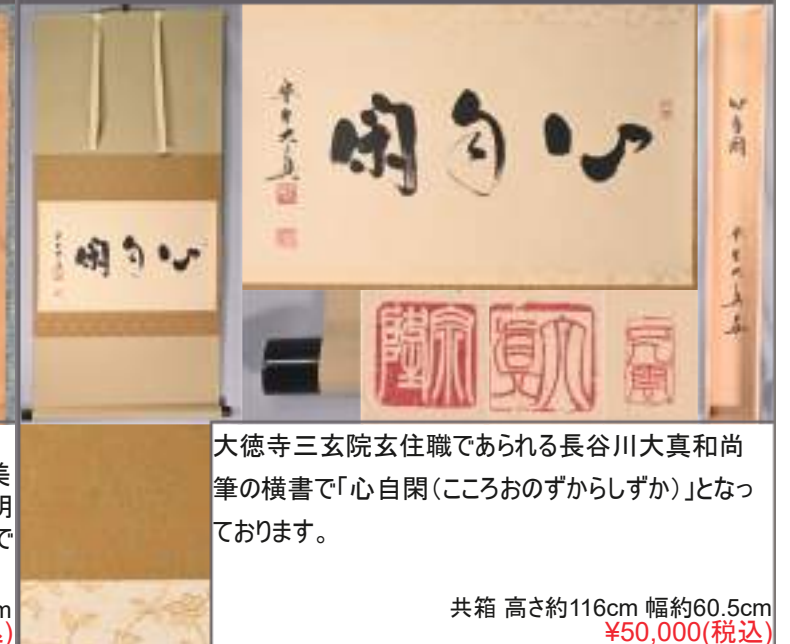
富士山画賛 猗々斎筆



藪内流12代猗々斎宗匠筆の富士山画讃になります。賛は「秀嶺明」とあり「秀嶺(しゅうれい)」は高く美しくそびえる山を意味する言葉で富士山を指しその明かりといった言葉でしょうか。初日の出などもイメージできます。

桐箱 高さ約98cm 幅約55cm
¥58,000(税込)

「心自閑」長谷川大真和尚筆



大徳寺三玄院玄住職であられる長谷川大真和尚筆の横書で「心自閑(こころおのずからしずか)」となっております。

共箱 高さ約116cm 幅約60.5cm
¥50,000(税込)

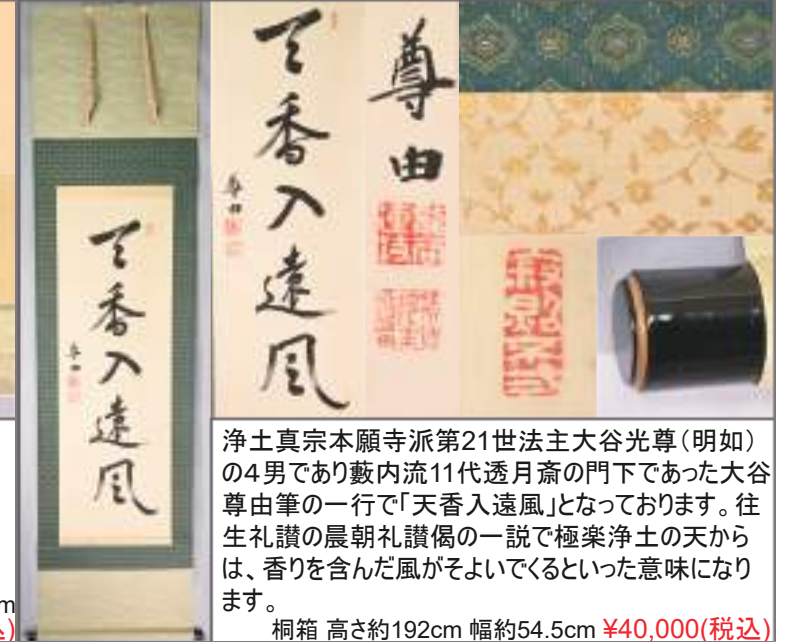
「春来草自生」一行 猗々斎筆



藪内流12代猗々斎宗匠筆の一行で「春来草自生(はるきたりておのずからくさしようず)」となっております。物事が自然の摂理に従って、然るべき時に成就する様子を表しています。

桐箱 高さ約175cm 幅約35cm
¥85,000(税込)

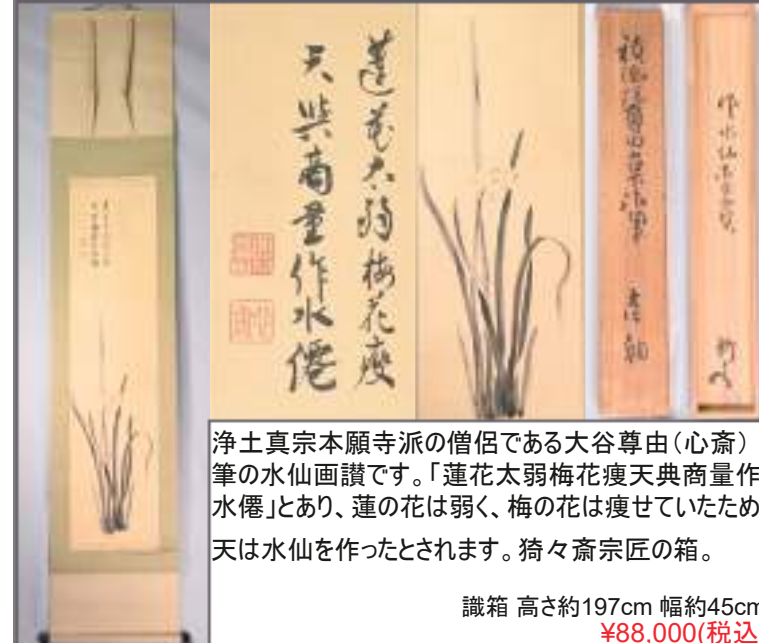
「天香入遠風」一行 大谷尊由筆



浄土真宗本願寺派第21世法主大谷光尊(明如)の4男であり藪内流11代透月斎の門下であった大谷尊由筆の一行で「天香入遠風」となっております。往生礼讃の晨朝礼讃偈の一説で極楽浄土の天からは、香りを含んだ風がそよいでくるといった意味になります。

桐箱 高さ約192cm 幅約54.5cm ¥40,000(税込)

水仙画賛 大谷尊由筆



浄土真宗本願寺派の僧侶である大谷尊由(心斎)筆の水仙画賛です。「蓮花太弱梅花瘦天典商量作水僊」とあり、蓮の花は弱く、梅の花は瘦せていたため天は水仙を作ったとされます。猗々斎宗匠の箱。

識箱 高さ約197cm 幅約45cm
¥88,000(税込)

「鳳舞龍吟仙妃笑」一行 透月斎筆



藪内流12代猗々斎宗匠筆の一行で「鳳舞龍吟仙妃笑」となっております。鳳が舞い、龍が吟じ、仙妃が笑うことはどれも奇跡のような出来事でめでたいことを指します。

共箱 高さ約147cm 幅約33cm
¥100,000(税込)